

相馬
ゆうこの

南千住レポート

まちづくり、
くらしの情報
を届けます

区議会控え室 荒川区荒川2-2-3区役所内5階 ☎:3802-4627

FAX: 3806-9246 / ✉:arajcp@tcn-catv.ne.jp

相馬ゆうこ事務所 荒川区南千住5-1-6・2階

☎・FAX:3807-4192


 ・HP→
 ・Twitter @m1010_yuko
 ・araken-nan.jugem.jp

町屋さくら廃止で乗合タクシーの実証実験が開始

昨年廃止されたさくらバス町屋ルート（熊野前～町屋～新三河島）の代替として、「デマンド交通（1回300円の乗合タクシー）」の実証実験が7月3日



からはじまりました。

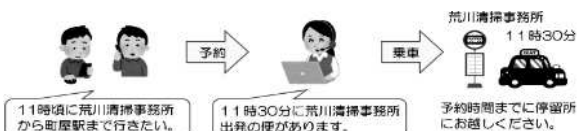
今回の「デマンド交通」は5人乗りの「乗合タクシー」で、清掃事務所⇄町屋

駅間に4か所の「乗降ポイント」を設定。

運行は区内のタクシー3事業者（三和交通、大日本



- ・区間 荒川清掃事務所～町屋駅
- ・期間 7月3日～翌3月末までの9か月間（3事業者が3か月間ずつ）
- ・運賃 1回大人300円・小人150円（未就学児は無料）
- ・運行曜日 平日のみ（土日祝は運休）
- ・運行時間 10～15時（2往復/1h、1日あたり20便）
- ・利用方法 スマホアプリ又は電話で事前に予約



交通、東京合同自動車）が3か月間ずつ行います。

区が費用

費用について、「諸経費から運賃収入700万を負担を差し引いて」区が約700万円を負担する見込みです。区と専門家による検討会議では「運賃収入の

【実証実験の概算費用】

運行関連経費	460万円
システム関連経費	450万円
小計	910万円
－ 運賃収入(見込み)	210万円
区の負担額(見込み)	700万円

みの黒字化は不可能」とされ、事業者からも「運行には区の負担が必要」との意見が出されました。区はこれまで、さくらバスについては「運行補助はしない」という方針のもと、コロナ禍での減便や路線廃止など事業者の提案を了承してきましたが、民間の独立採算が困難なのはさくらバスも同じはずです。

高齢者・障がい者の移動手段確保を

港、墨田など5区ではデマンド交通の実証実験を行ったものの、本格実施には至りませんでした。区は「（デマンド交通は）今後の区内全域の公共交通のあり方の検討に資する」としていますが、実証実験をふまえ、改めて、高齢者などの移動の保障にさくらバスが果たしてきた役割を再確認したい。区として一定の助成を実施し、さくら・汐入さくらの増便や町屋さくらの再開も検討するなど、利用者の要望と実態に沿った地域交通の整備が必要です。



校庭のクギ調査、区内で1,658本を発見

小中学校の校庭に放置されたクギなどについて、金属探知機を使った探索調査の結果が、区教育委員会から報告されました。



今年4月、杉並区の小学校で児童が校庭に埋まっていたクギで大けがをした事故をうけ、文科省が全国の教育委員会に安全点検を行うよう通知。荒川区でも5月に教職員が目視などで点検を実施しましたが、深い

位置に刺さっているものもあり、区教委は「金属探知機で調査を行い、結果を改めて報告する」としていました。

金属探知機で 1,400本を発見

調査は、ゴムチップと人工芝以外の校庭の小中学校・幼稚園計31校を対象に、金属探知機3台をレンタルして、5月18日～6月16日の約1か月かけて実施。その結果、小学校16校で1,123本、中学校6校で257本、幼稚園2園で20本の計1,400本が発見されました。



校庭から見つかったクギ

エ芝以外の校庭の小中学校・幼稚園計31校を対象に、金属探知機3台をレンタルして、5月18日～6月16日の約1か月かけて実施。その結果、小学校16校で1,123本、中学校6校で257本、幼稚園2園で20本の計1,400本が発見されました。見つかったクギ等は10cm程度の深さにあり、子どもの怪我につながるようなものはなかったとのことです。

見つかったクギ等は10cm程度の深さにあり、子どもの怪我につながるようなものはなかったとのことです。

区内ではこれまでに見つかった258本とあわせ、合計1,658本に。運動会などで整列する際の目印として使用されたものが多いそうで、区教委は今後「校庭にクギを打った際は使用本数と除却本数を照合するなど、維持管理を徹底する」としています。安全な学校環境の確保に、そもそもの教職員の配置と過密労働の軽減をすすめたい。

	幼稚園	小学校	中学校	計
ゴムチップ	尾久	三瑞、汐入東、峡田、尾久六、尾久宮前、一日、二日、ひぐらし(8校)	南二、諏訪台	11
人工芝	—	—	原	1
芝生	南千住第二	瑞光、二瑞、汐入、四峡、五峡、九峡、赤土、尾久西、三日(9校)	第七	11
その他	他7園	六瑞、二峡、三峡、七峡、尾久、大門、六日(7校)	他6校	20

31校で調査、
小16校・中6校・幼2園から1,658本発見

6月中の完成を予定していた隅田川テラスの千住大橋上流部分は、7月下旬に一般開放の「お知らせ」。当初の3月完了が4か月遅れの竣工です。開通で「乗り入れの自転車がふえないか心配」との声も。都、区が連携して管理に努めるよう要望します。



階段が新設されています

スーパー堤防

〈法律・生活相談〉 8月の定例法律相談日は お休みです

ご要望やご相談などは随時ご連絡ください。事務所での定例法律相談は、8月はお休みですが、平日の午後に法律事務所（北千住）でも可能です。

お名前、電話番号等を下記の留守番電話に録音して下さい。

相馬 ゆうこ事務所 南千住5-1-6-2階 ☎3807-4192

シルバー人材センター～高齢者のいきがい、くらし支援を



の自転車整理、広報紙の配布・掲示など、みなさんにも馴染みのあるものです。

会員数は コロナ禍で減

この間、企業の定年延長やコロナ禍で会員登録は減少傾向でしたが、2022年度は1,684名（入会239・退会133）で、昨年度1,578名から106名増加に。南千住地域でも310名（男性179・女性131）の方が登録しています。

会員数と仕事の年間契約額(億円)



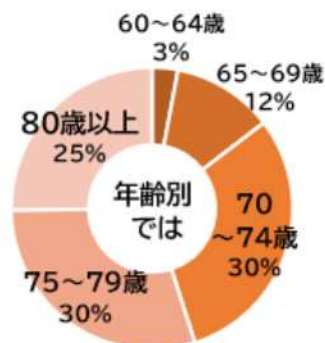
個々の要望に沿った丁寧な対応も求められます。

会員ひとり当たりの平均配分金は、今年5月では53,218円に。物価や電気代の値上げがつつく中で年金も目減りして、実質的に家計の足しにと就労されている方が少なくありません。

70代が6割、80以上も2割超 会員さんの年齢別では70代が60%、80代が25%（継続就労）に。60代は定年延長や再雇用などで現役就労が多いようです。会員の最高齢はなんと95歳、実際に就業している方は92歳が最高齢です。歳をとっても健康で、希望する方がいきがいを持って働き続けられる環境づくりと、暮らせる年金制度こそ必要ではないでしょうか。



【地域別会員数】



インボイス制度で会員さんが消費税負担？

事業者扱いです。10月からインボイス制度が導入されるとシルバーセンターが負担している“消費税分”について、会員負担が発生（6年間の経過措置10%→2%あり）し、手取りが減少すると心配されていました。共産党区議団は、インボイス制度が実施されても「シルバーセンターへの課税や会員負担はやめるべき」と議会で取り上げました。



区も区委託事業の消費税は区負担、民間発注分は発注者負担を原則として、配分金の減少はさせないと表明。フリーランスや零細事業者、農家など弱者いじめのインボイス制度中止の声をあげたい。

来年度からの新たな税金…「森林環境税」って？

2024年度から、新しく「森林環境税」の徴収が始まります。

「パリ協定(※)」による温室効果ガスの排出削減などが目的です。

※「パリ協定」…気候変動問題に関する国際的な枠組み。2015年の「国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)」



で合意され、2016年11月4日に発効しています。

国税ですが、住民税の均等割に1,000円上乗せして自治体が徴収。ただし、2013年度から同様に1,000円上乗せさ

れていた「復興税」が2023年度で終了するため、実質的な負担は変わりません。徴収された税金は、「森林環境譲与税」として全国の自治体へ配分され、森林の間伐や林業の人材育成、木材利用の促進などに充てるとされていますが、



その配分や実際の使いみちなどに対し、疑問の声が挙がっています。

森林なくとも 2024年度からの徴収に先行して、19年度から自治体に「譲与税」の多額の配分 配分が始まっています。ところが、

配分方法は「森林面積：人口：林業従事者数」＝5：3：2とされ、森林がなくても人口が多い自治体に多額の交付金が配分されています。



【荒川区への交付額】

2020年度 801万2千円
2021年度 1702万6千円
2022年度 1730万2千円

計 4234万円



そのうち400万円が
基金積み立てに

荒川区へも、森林面積ゼロにも関わらず3年間で4234万円が交付。区は国内産の木材を使用した学習机・椅子の購入のほか、400万円を公共施設建替えなどの基金（区の貯金）に積み立てています。

23区全体でも、森林面積ゼロですが2021年度7.7億円が交付され、9区で計2.1億円が基金積立にまわされました。2022年度も交付金約8億円のうち、8区で計1.9億円が積立に。23区全体の交付額の2～3割が、使途目的が曖昧なまま、基金に積み立てられている状況です。



国・自治体本気の気候変動対策を 国は、都市部の木材利用を促進することで、地方の林業に好影響があるとしていますが、「使いみちが分からない」という区もあり、配分方法の見直しなど改善が求められています。暮らしが大変ななか住民税に一律課税する一方で、原発頼みで温暖化対策が後手後手の政府の姿勢こそ問題です。国が家族経営の農林漁業を大切に国土・自然を守り、森林整備にも本気で取り組む時です。荒川区でも緑化、再生エネルギーをすすめ、身近なところから気候変動対策に取り組みたい。

ご意見・ご質問頂きました ○「他の団地では、車で移動商店があるようですが、うちの団地でも来てくれないでしょうか？」とお電話で…足立区では、高齢化が進む都営住宅に、移動販売事業者と自治会、東京都との調整を行って事業者を募集し、区に登録も。スーパーの宅配も増えてきていますが、いろいろ検討してみたい。○「我が家の上の子は部活で野球、下の子はバスケの練習で3丁目のリサイクルセンター前公園に…でも混んでいて、出来ないまま帰る日が多いです」子どもが運動できる場の確保、設置など難しいのですが、他の施設含めて知恵を出したい。

